

県母親大会を開催

昨年コロナ感染拡大により延期されていた香川県の母親大会（同実行委員会主催）が8月29日オンライン形式で開催されました。高松市の2会場と丸亀市、三木町や小豆島5カ所を結んで開かれました。のべ427人が参加しました。

記念講演は精神科医の香山リカ氏が「人にやさしい国に女性たちや子どもたちの生きづらさはどこから」と題して講演しました。

のストレスが増えている状況を語るとともに「他人に役立ったという感情が大切だ」という世の中になるなか、役立てない人間がだめではない。多様な社会は、管理しやすいが、長期的には弱くなる。生き方の多様性がある方がいい」と話しました。

香山氏は、女性や子どもを中心とした自殺や心療労働の実態が報告され、「学生が『これで一週間は乗り切れる』と語っていたのが印象的、学生を追い詰めているのが菅政権です。ここで集めたアンケートをもとに県に学費半額などを要請した」（青年）、「従業員が家族に感染者が出



て、会社で従業員にPCR検査をした。国が出してくれていたら。また、廃業を余儀なくされた業者が、コロナ禍さえなければあと2年は続けられたと言っていた」（業者）など語られました。

参加者は「私たちの願いを実現できるのは総選挙、非正規や学生、女性、ジェンダーのギャップをなくすためにも総選挙が大切だ」、「学童現場の支援員の、感染防止対策を取りながら三つを避けて、マスクなど自腹で調達する話を聞いてショック

学生支援

香大工学部前

香川県の民青同盟と地元有志は8月27日、香川大学工学部前で学生支援に取り組みました。

レトルト食品や日用品が並び、17人の学生が受け取りにきました。藤沢直人県委員長は、「今回、学校が夏休みということもありあまり来ないのではと思っていましたが予想よりも多くの学生が受



け取りに来た。対話していくと学生から「バイト先が休業した」「不要不急の移動は制限されているので学校と家の往復。食事もスーパーの弁当ばかりで健康面が不安」「食費3万以下」という声を聞いた。学生が困難な状況は以前、変わっていないので今後も継続していくと思う」と話しています。



日本共産党衆院四国ブロック比例候補の白川よう子さんの思いが8月28日付けのしんぶん赤旗に掲載されました。

小さい頃からの家庭環境、夜学で学んだこと、入党の頃のことがつづられています。ぜひご覧ください。

高齢者の補聴器助成制度は...

神出宇多津町議が質問

宇多津町の日本共産党



神出佳宏町議は補聴器助成制度について現状はどうなっているのかを質問するとともに、▼医学雑誌「ランセット」では予防可能な認知症リスクに難聴放置の影響が大きい

という指摘があり、補聴器の助成は障がい者への支援という観点だけではなく、医療の観点で見ると必要があること、▼国の補聴器助成制度では中等レベルの難聴に対応して

いないこと、▼他の自治体でも実施例があること、▼難聴者が社会交流や趣味活動が阻害要因になっている。▼中等レベルの高齢難聴者にも補助制度を求めました。

町は「18歳未満の軽中等度難聴児へ町独自の支援がある。今後、関係機関や財務部局と協議し、

you気

白川よう子

四国ブロック国政対策委員長

徳島県以外の3県が「まん延防止等重点措置（まん防）」の適用にどこに行っても夕食を食べるにも一苦労。結局はコンビニで調達し、仕事しながらホテルの部屋にてということも続いています。

本当にこの国のコロナ対策は間違っている。千葉県でコロナ感染自宅療養の末、早産で赤ちゃんを亡くしたお母さんの気持ちを考えるだけで胸がつぶれそうなお母さんが、手のひらから命がポロポロとこぼれ落ちていく。救えるはずの命が救えない。

27日には高知県安芸市で「政権交代をめざす市民の会」が発足し、スタート集会として安芸駅前では憲の武内のお衆議院議員と一緒にお話し。光はここにいます。

松山市で居酒屋さん前を通ると「コロナ感染がお酒のせいにはされませんでしたので休業します」との張り紙。店主さんがいらっしやっただけで声をかけてみると、「前回のまん防の時の時短・休業補償が、昨日ようやく振り込まれた。これでやっと支払いができる」との声。

「命を粗末にす

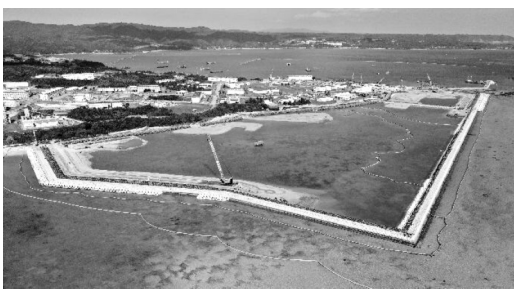


えます。

香川の土砂も投入される辺野古新基地 サンゴ破壊 《赤旗スクープ》

香川県の小豆島の土が埋め立てに使われている沖繩県辺野古新基地建設現場で、国が埋め立て地点のサンゴを強制的に別の場所へ移植する作業中、サンゴの移植先で接着剤を使用してたり埋め立て地点で小さく砕かれていくことが、しんぶん赤旗のスクープで分かりました。割られたサンゴは移植先でコンクリートの補修に使用するための水中ポンドを使用。作業員が手作業でサンゴを丸めると、海が白く濁ります。

撮影した写真や動画には自生していたサンゴが小さく砕かれ、カゴに無残に積まれている様子がわかります。



移殖先の環境破壊も懸念されます。ポンドの安全性については、製造担当者「海底トンネルや港湾補修に使うもので、サンゴの移植に使っている話は初めて聞く」というほどです。

沖繩の普天間飛行場の移転問題から計画された名護市の辺野古埋め立ての新基地計画は、地盤の軟弱化や自然の生態系を壊す問題などが解決しないまま工事が強行されています。